

# 胸アツ

# 戦略図鑑

逆転の戦いから学ぶビジネス教養

著者 齊藤 颯人  
監修 本郷 和人  
本村 凌二



人の歴史。

それは、「戦いの歴史」でもある。



その中には、

戦いたくなくて戦った人もいれば、

戦いたくなかったけれど、

戦わなければいけない人もいた。

一番になりたかった人。

譲れないものを守りたかった人。

今日を生きるために戦った人。

自分の決めたルールや、筋を通したかった人。

大切な人のために戦った人。

自分の理想の世界をつくりたかった人。

立場も、目的も、  
生きた場所も、  
文化も、言葉も違う。



それでも、私たちは、戦ってきた。

戦いを選んだ。

戦わざるを得なかった。

この本では、

古代から現代に至るまでに

起きたさまざまな戦いをテーマに、

「彼らがどう戦ったか」。

その戦略を分析・考察しながら



私たちが生きていく中で

仕事や人間関係など、

人生に通ずる「戦略」をまとめていきます。

「歴史は繰り返す」というように、

その状況こそ違えども、

私たちは

時に戦いに没頭し、

時に戦いに疲れ、

そして悩みます。

勝ちたい、

負けたくないと考えることもあれば、



あー、もう戦いたくないなーと  
思うこともあります。

そんな中でも、

明らかな逆境をはねのけ、

大逆転を果たした人々がたくさんいました。

彼らは、逆境の中で何をしたのか？



先人たちの生みだした戦略が、

その生きた道筋が、

これからの時代のヒントとなりますように。

いざ、  
戦略の世界へ！

序 章

# それぞれの戦略

01 奇行に次ぐ奇行の理由とは？ 信長が勝ち目ゼロの戦いで選んだ戦略

桶狭間の戦い〔1560年〕

024

02 「あえて全力は出さない」という戦い方

第四次川中島の戦い〔1561年〕

034

03 裏切りを繰り返し、それでも天下人に愛され続けた男

第一次上田城の戦い〔1585年〕

044



# 日本の戦い

04

いい話の奥に隠されているかもしれない不都合な真実  
乙巳の変〔645年〕

056

05

海賊を撃退せよ！ 日本を救った知られざる英雄たち  
刀伊の入寇〔1019年〕

066

06

20年ニート生活だった頼朝がなぜ幕府を開けたのか  
源頼朝の鎌倉入り〔1180年〕

076

07

日本で初めて天皇を倒した男たち  
承久の乱〔1221年〕

086

08 希望、失意、そして再起。足利尊氏が室町幕府を築くまで

多々良浜の戦い〔1336年〕

096

09 流れは一瞬。置かれた条件で勝つ大バクチの打ち方

厳島の戦い〔1555年〕

106

10 返り咲きを懸けた戦国武将たちの最期

大坂の陣〔1614年～1615年〕

116

11 補欠の補欠候補から將軍になった徳川吉宗

徳川吉宗の將軍就任〔1684年～1716年〕

126

12 日本全体を敵にまわした長州という強すぎた藩

第一次・第二次長州征伐〔1864年～1866年〕

136

13 歴史を変えた英断、政治家としての徳川慶喜

大政奉還〔1867年〕

146

**14** 新しい時代の中で反乱を起こした最強の志士たち

156

西南戦争〔1877年〕

**15** 世界最強の艦隊を迎え撃った日本の作戦

166

日本海海戦〔1905年〕

**16** 生き残った敵兵をどうする？ 命がけで人を助けた軍人たち

176

スラバヤ沖海戦〔1942年〕



# 世界の戦い

17

— 本当の計画は誰にも知られてはいけない

トロイア戦争「紀元前1300年頃」

188

18

— 300対20万にどう挑む？ スパルタ王レオニダスの覚悟

テルモピュライの戦い「紀元前480年」

198

19

— 奇策には奇策を 天才と天才の対決

208

ハンニバル戦争「紀元前218年～紀元前201年」

20

— 元ヤンが中国を統一するまでの話

218

楚漢戦争「紀元前206年～紀元前202年」

21 天下は1日にしてならず。歴史に名を残した3人のリーダー 228

赤壁の戦い〔208年〕

22 「エモ」は力なり 238

初期十字軍の戦い〔1096年～1192年〕

23 安全策が万全策とはならない理由 248

アルマダの海戦〔1588年〕

24 ウクライナ問題はここから始まった？ 反乱の先にあるもの 258

フメリニツキーの乱〔1648年～1657年〕

25 生まれたての国アメリカがなぜ最強のイギリスから独立できたのか 268

アメリカ独立戦争〔1775年～1783年〕

26 本土上陸を阻止せよ！ ナポレオンの野望を阻止したイギリスの英雄 278

トラファルガーの海戦〔1805年〕

27

ヨーロッパ中に恐れられ、嫌われたナポレオンの戦い方  
アウステルリッツの戦い〔1805年〕

288

28

ヨーロッパの侵略から身を守ったアフリカの国  
アドウワの戦い〔1896年〕

298

29

因縁を超えられるか？ 第一次世界大戦、ドイツの戦い  
タンネンベルクの戦い〔1914年〕

308

30

100万人の兵士を動員した史上最大の作戦  
ノルマンディー上陸作戦〔1944年〕

318

本書の内容や図版は、巻末記載の参考文献をもとに制作しています。  
ストーリーの流れを重視し、複雑な部分はざっくりとしたたとえ話などに  
置き換え、歴史用語や人名などは一番メジャーなものを採用しました。  
お楽しみいただければ幸いです！



序章

それぞれの戦略



戦うとは、どういうことか？

それは決して、「勝つことがすべて」ではない。

「生き残るための戦い」

「信念のための戦い」

「未来を切り開くための戦い」

人それぞれの戦い方、目的、そしてドラマがある。

ゆえに、戦略は一つではないのだ。

この本の最初に、そのことがよくわかる例として、

日本の戦国時代に生きた猛者たちの

三者三様の戦略を紹介しよう。

# 奇行に次ぐ奇行の理由とは？ 信長が勝ち目ゼロの戦いで選んだ戦略

## ✂️ 桶狭間の戦い 「1560年」

日本史上もっとも有名な人物の1人である織田信長。信長が勢力拡大を目指す中で極めて重要な一戦となったのが、今川義元いまがわよしもととの「桶狭間の戦い」です。しかし、その内容はこれまで言われていたこととだいぶ異なるよう……その戦いの戦略とはいかに。

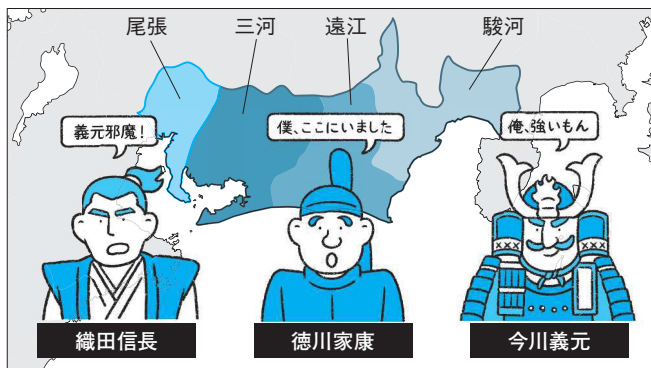
### 織田家を悩ませてきた今川家

戦国時代の尾張国おわりのくに（現在の愛知県西部）。この国で大きな力を持っていたのが織田家でした。織田家は、信長の父・信秀のぶひでの代で一気に力を伸ばしました。

しかし、その織田家を長年苦しめてきたのが、駿河国すまがのくに（現在の静岡県中部）の今川義元です。今川氏は「海道一の弓取り（東海道で一番強い大名）」と称された義元のもと、東海地方屈指の戦国大名としての地位を確立しました。

この義元の妨害により、織田家は信秀の代で尾張統一をできず、代替わりした信長も一族の内紛に手を焼いていました。1559年にはなんとか内紛を片づけ、尾張のほとんどを統一す

### ●当時の勢力図



#### 補足解説 織田家と義元との因縁

織田家にもいくつかの系統があり、信秀や信長が生まれたのは一族でも格下の「織田弾正忠家」だったが、信秀の代で一気<sup>だんじょうのじょうけ</sup>に力を伸ばした。

その後、信長が家督を継いだときに起きたのが、織田弾正忠家<sup>やまどのかみけ</sup>に押され気味だった織田大和守家との間に発生していた一族の内紛だった。

一方、今川義元はかねてから織田氏との間で起きていた尾張・三河国境付近での戦いを終わらせるべく、水野氏（織田氏に服属していた国境付近の大名）を攻めるなどしており、信長を悩ませていた。

ちなみに、義元は顔を白塗りにし、「お公家様」のようないで立ちをしていたことから「無能で軟弱」という見方をされることも多い。だが、貴族風の趣味は義元の教養を示すもの（現代で言えば「ビシッとタキシードを着こなせる」というような教養人の証）であり、実際には数々の戦いで武勇を発揮している。

ることができませんが、「義元がいる限り、先はない」という状況に信長はいたのです。